



左上から時計回りでOCHISの作本貞子副理事長と語り合った大西氏、酒井氏、谷合氏

支援するNPO法人ヘル

運輸業界の健康管理をスケアネットワーク(OCHIS、武田裕理事長)は16日、第15回OC HISセミナーを開催。今回のテーマは「アフターコロナを見据えたドライバーの健

康管理」で副題を「情報の一元化で事故リスクの予兆発見」とし、トラック、バス、タクシーなど健康管理担当者ら100人以上が聴取した。

ウェビナーでは基調講演3題と情報提供、事例紹介などに分け、このうち基調講演は、国土交通省自動車局の谷合隆安全政策課長、大原記念労働科学研究所の酒井一博は)我慢せず車を止める

「コロナ後の健康管理」テーマOCHISセミナーで開催

氏、全日本トラック協会の大西政弘交通・環境部長が講演した。

谷合課長は「健康起因による事故防止」をテーマに、まず運輸業界の事故の現状を説明し、事故防止にスクリーニング検査や点呼時のドライバーマークに、ます運輸業界の事務官の様子の確認が重要とした。このうえで現在検討を進めている情報通信技術(ICT)を活用した遠隔点呼など、点呼支援機器の活用で効率的な点呼のあり方を説明。将来的に実施に向けての検討を重ねていることを報告した。

酒井氏は「運輸業界における過労死防止対策のあり方」をテーマに、自身が座長を務める国交省の事業用自動車事故調査委員会の5年間の活動を総括。「事故の背景には、ずさんな労務管理、健康管理がある。事故には予兆がある。(ドライバー)

こと」と強調し、管理者には「止めることの指導教育」と求めた。また医療データベースがあるように運輸データベースを構築して事故防止につなげるよう提言した。

事業者インタビューでは、堀内運送の三浦隆志課長がOCHISの平田範江マネージャーと対談形式で行い、コロナ禍での事業者の取り組みについて軽妙に語った。